

県外派遣審判員報告書

作成日 2018年 8月 9日

大会名	第48回九州中学校バスケットボール競技大会		会場	別府アリーナ	
期間	8月4日(土)~8月6日(月)		報告者	川井 剛(中体連)	
スケジュール					
期日	内容		場所		
8月4日(土)	17:00~	審判会議	別府アリーナ		
8月5日(日)	10:00~	大会1日目	別府アリーナ		
8月6日(月)	10:00~	大会2日目	別府アリーナ		
審判会議の内容					
○監督会議での伝達事項 ○旧ルールの適用 ○全中の代表決定戦であるということ					
実技	割り当て	女子1回戦【 菊陵 vs 深江 】	CC	相手	仲松(沖縄)/松尾(佐賀)
○ゲーム前(プレカンファレンス) まず両チームの特徴を確認した。(ビックマンがいること/キープレイヤー)ガイドラインについては、ポストマンへの対応、早い段階での基準作りを特に確認した。メカニクスについても、各ポジションごとの位置や動きの確認、プライマリエリアやアングルの確認、クロック管理、プレゼンテーション等について確認をした。					
○ゲームの実際 ゲーム序盤、相手のエリアでの出来事に対して連続で笛を入れてしまったところが、クルーワークとしてマイナスであった。中盤以降は、それぞれのプライマリで起こることを落ち着いて判定をすることができていたが、深江のベンチからは数回他のクルーに質問があったようで、フラストレーションがたまっている部分もあったようだ。一番の反省はEOGの場面である。残り数秒の状態ですぐに深江がコフィンコーナーでプレッシャーDFを仕掛けた。その際、慌てた菊陵がボールの保持を失い、菊陵の選手にボールが触れてバックコートにボールが返り、両チームの選手がもみ合う形でボールに触れ、結果としてジャンプボールシチュエーションにした。バックコートバイオレーションではないかとのアピールもあった。このような展開になるであろうという予測や、そのための準備、引き出しが足りていなかった場面であった。					
○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 森田氏(長崎県)A級 上記の通り、自分の反省通りであるとのアドバイスをいただいた。3人というクルー全員が協力していく雰囲気、ともすれば壊してしまう可能性もあるので、オーバーエリアでの判定については再考しなければならない。また、EOGのケースについても、どのようなことがあったからこのように判定したと、起こった事実を理路整然と説明できるために、事前の準備や予測、確認が大切であると改めて感じた。					
実技	割り当て	男子2回戦【 大分大附属 vs 宮崎 】	U2	相手	比嘉(沖縄県)A級/溝上(佐賀県)B級
○ゲーム前(プレカンファレンス) 3POメカのなかでも、ローテーションのタイミング、各ポジションでの動きやアングル、クルーでの協力等について確認した。また、両チームの特徴についての確認、最後に、日本が強くなるためにレフリーとしてどう判定していくか？という視点をもつという確認を行った。					
○ゲームの実際 序盤から、大分大附属に長身のプレイヤーがいることから、その守り方や面取りの仕方などが気になっており、笛として表した。どちらのコールも、両ベンチ共に微妙な反応であった。メカニクスについては、3人で協力しながら大きなミスもなく進めることができた。途中で、トレイル側からのドライブプレーのステップを、リードからトラベリングのコールをしたが、トレイルが捉えているところなので、吹くべきではなかったと思った。また、大分のプレイヤーのスクリーンについて、ゲーム序盤から気にはなっていたものの判定することが出来ておらず、結果として4Pに比嘉氏から自分のエリアでの出来事を吹いていただくことになってしまった。気になるプレーの決着の付け方に反省が残った。					
○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 川原氏(大分県)A級 メカニクスについては、3人で協力してスムーズに行うことが出来ており、見ていて違和感はなかったとのこと。その中で、判定について2点ご指摘をいただいた。まずは、序盤にコールしたポストのやり合いについて。特に、オフェンスプレイヤーのファウルを吹いたことについては、まだ笛にするのは早いではなかったかということだった。また、試合を通してトラベリングの判定が、過敏だったように感じたことご指摘をいただいた。どの時点でトラベリングが成立したのか、客観的に見て分かりづらかったとのことであった。目の付け所はよいとのことだったので、それをゲームにマッチした判定につなげるために、プレーの見極めをもっと追求しなくてはならないと感じた。					
実技	割り当て	男子準決勝【 大分大附属 vs 西福岡 】	U2	相手	砂川(沖縄県)S級/一瀬(長崎県)B級
○ゲーム前(プレカンファレンス) 3POメカのなかでも特に、3人での協力という視点での確認や言葉が多かった。また、TFになるケースの確認やその際の対応、UFのクライテリアの確認も行った。また、九州総体の準決勝ということで、ゲーム途中からは次のゲームを意識した戦いに両チームがシフトしていく可能性があることも確認した。					
○ゲームの実際 昨日の反省から、相手のエリアでの判定を相手に任せ、エリアの重なるところもまずは見るという課題をもってゲームに臨んだ。結果、1ゲームを通して自分のならしたファウルコールが1つだけということになってしまった。映像で振り返ると、自分のエリアでプレーも捉えていて、鳴らしていないもののがかなりあった。ゲーム中は相手のエリアかも？と思って見ていたプレーが実は自分のエリアで始まったものであったり、エリアが重なる部分であったり、もっと判定をしていっていいものがたくさんあった。					
○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 安藤氏(大分県)A級・本部氏(宮崎県)B級 自分の反省にもあったように、プライマリを意識することはとても大事なことだが、やはりもっと判定をしていくことも必要であることご指摘をいただいた。エリアの重なる部分でのダブルコールがあってもいい場面もあり、ダブルで鳴った際に、アイコンタクトでどちらがレポートをするのかを合図し合う方法もあるとのことであった。					

全体を通しての感想

今回は全試合3POでの実施ということで、3ゲーム担当させていただき、とてもいい経験になりました。県内で活動してきたことを発揮することができたと思います。その中で、大きく三点を今後の課題として挙げたいと思います。

一つ目は、クルーワーク・クルーチーフメンタリティーについてです。本大会の1ゲーム目にCCを担当させていただきました。相手のエリアの出来事を吹き込んでしまったことや、3人で協力して一つのゲームをクリーンに、スムーズに運営するところが、いろいろな点で足りませんでした。あとの2ゲームを上級の方と組ませていただいてゲームに臨んだ際、ライセンスに関係なく3人で協力できている実感がわかりました。このような雰囲気づくりやクルーとのコミュニケーションなどが、今後の課題の一つ目です。

二つ目は、プライマリという考え方についてです。誰が一番手として責任を持つプレーなのか、二人で見ている場所なのか、ダブルでなった際にはどちらがレポートに行くのか等が、自分の中でまだはっきりとしていなかったということが浮き彫りになりました。今大会も一緒に派遣されたメンバーに撮影をしていただいているので、映像を見て検証したいと思います。

三つ目は、判定についてです。ベンチや観客から見て、何が起こったのか分からないようなもの、当該選手のRSBQが崩れていないものに対するファウルのコールが多くありました。もっとプレイを長くとらえ、ファウルという絵が出来上がってからコールするという点についても、今後の課題として取り組んでいきたいです。

最後に、このような機会を与えて下さった県審判委員会や、運営等さまざまな場面でお世話を下さった大分県審判部の方々に感謝申し上げ、第48回全九州中学校バスケットボール競技大会の報告といたします。